

## ◎多世代交流の仕組みづくり事業

5月19日(日)に、実谷区民館で地域住民、三育学院大学と一緒に、多世代交流の仕組みづくり事業「第5回 寄茶場 in 実谷&七本」を実施しました。

今回は、「大人と子どもでオリーブ&ハーブを植えよう」をテーマに総勢30名で実谷区民館にオリーブ&ハーブ園を作りました。



▲竹上先生より植え方を教わっています

オリーブやハーブの効能、植え方、育て方を三育学院大学 竹上 喜征先生より教わりながら行いました。オリーブを植えるために穴を深く掘ったり、ハーブ園となるように花壇を作ったりと全員で協力しながら実施しました。

実施後は、三育学院大学 棚橋 ゆか管理栄養士がオリーブの葉で作ったグリッシーニとお茶を飲みながら疲れを癒しました。

今後は、植樹したオリーブやハーブを住民で育て、活用していきます。



▲子どもと高齢者が一緒に草むしりしている風景

今回も以前と同様、実施にあたり、地域住民の方を中心に事前に植える場所の選定や事前準備、三育学院大学の先生と打ち合わせ、役場産業観光課、企画財政課の協力を得るなど寄茶場がよりよいものになるよう実施しました。

参加者は「特別なことは求めてなく、集まるのが大事」という声があり、今後も気軽に子どもから大人まで集える場所作りを住民の皆さんと作って行きたいと考えています。



▲グリッシーニを食べながら談笑しています



▲実谷区民館に作ったオリーブ&ハーブ園

## ◎多世代交流の仕組みづくり事業

7月22日(月)に、実谷区民館で地域住民、三育学院大学と一緒に、多世代交流の仕組みづくり事業「第6回 寄茶場 in 実谷&七本」を実施しました。

今回は、「オリーブ&ハーブ園草むしり&空間づくり」をテーマに総勢25名で実谷区民館をきれいにしました。



▲子どもたちが一生懸命草むしりしています



▲実谷区民館をきれいにしている姿

第5回寄茶場 in 実谷&七本の実施の時に参加者より「特別なことは求めてなく、集まることが大事」という意見を実行できた内容でした。

きれいになった実谷区民館やオリーブ&ハーブをさらに活用し、地域を盛り上げたいと思います。

今回、実谷区民館の軒下が物置になっていたのをきれいにし、ちょっとした休憩場所として活用する目的と子どもたちがサッカーなど遊べる場所として活用できるようにしたい地域の思いから実施することになりました。

暑い中でしたが、大人がやっている姿を真似して、子どもたちも草むしりやむしった草を集める作業と一緒に頑張りました。実施後は、早速子どもたちがサッカーボールやバドミントンを持ってきて遊ぶ姿や大人が教える姿も見られました。大人は子どもたちが遊ぶ姿を見ながらお茶を飲み休憩しました。その光景がとても微笑ましく、これこそ「地域全体で子どもを育てる姿」だと感じました。



▲オリーブアンパンを食べながら休憩中



▲きれいになった実谷区民館の軒下

## ◎多世代交流の仕組みづくり事業

8月22日（木）に、実谷区民館で地域と三育学院大学の方5名が実谷区民館の草むしり、椅子のニス塗りを実施しました。



▲住民と学生がニスを塗っている姿



▲ベンチがきれいになるように丁寧に塗っています

今回、実谷区民館の敷地内の草が生えてきたことや「第6回寄茶場 in 実谷&七本」できれいにしたベンチや椅子をさらに長く使用できるようにニスを塗ることの提案があり、有志で実施しました。

今回、地域の方が声掛けや区長へ連絡、三育学院大学と日程調整など実施しました。夏の暑さもあり、参加者は少なかったものの、地域の方と学生の繋がりも増える良い機会となりました。

このようなちょっとした集まりが地域づくりに繋がるため、今後増えていくことを期待します。



▲きれいになったオリーブ&ハーブ園

## ◎多世代交流の仕組みづくり事業

10月7日（月）に、実谷区民館で地域住民、三育学院大学と一緒に、多世代交流の仕組みづくり事業「第7回 寄茶場 in 実谷&七本」を実施しました。

今回は、三育学院大学の保健師実習も兼ねて学生が「家の中の整理整頓と簡単な運動で転倒を防ぐ」をテーマに講話を実施しました。

総勢19名が参加し、皆で転倒を防ぐための環境づくりを学びました。

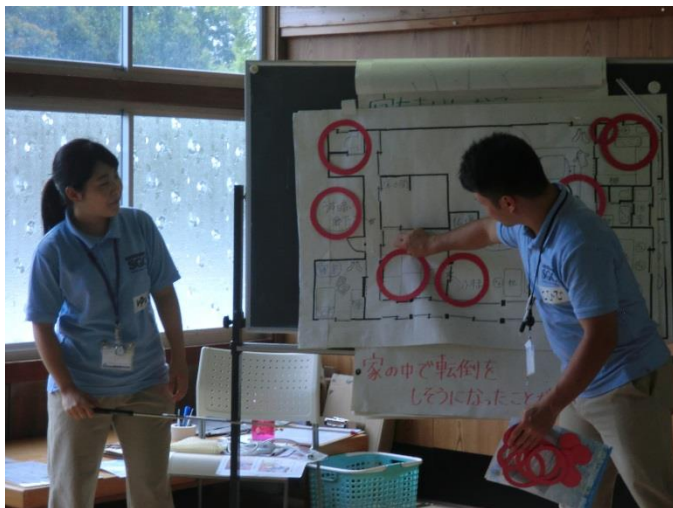


▲家の中で転倒しそうな場所を真剣に考えています

今回は三育学院大学の学生が家の中の整理整頓やちょっとした工夫による転倒予防を中心に話をしました。

家の中で電気コードやマットにつまづき転びそうになった経験をした方も多く、学生からの「転ばないためのポイント」を真剣に聞いていました。住民の感想の中にも「家に帰って整理整頓します」や「自分の生活を見直したい」など早速実践する意見が多くありました。

講話の後は、学生と住民が一緒にお茶を飲みながら談笑し、楽しい一時を過ごすことができました。



▲学生が家の中で転倒しそうな場所を説明する姿

今回、三育学院大学の学生が中心となり企画からチラシ作り、住民への声掛けを実施しました。学生が地域住民へ熱心に声掛けを実施したおかげで寄茶場に初めて参加する方もいて、寄茶場を知るきっかけになりました。

今後は、寄茶場 in 実谷&七本を開始して1年が経つため、寄茶場の方向性を住民と話し合っていきたいと思えます。



▲学生と住民がお茶を飲みながら談笑しています

しめ縄を作る参加者＝御宿町



御宿町の実谷区民館で、正月用のしめ縄飾りを作るイベントが開かれた。町内の親子や高齢者、地域の大学生ら約30人が参加。年末の風習を一緒に体験し、世代間交流を

### 親子、高齢者ら30人

満喫した。

同町の高齢化率は2019年4月現在で50・3%に上り県内自治体で最も高い。イベントは、町の地方創生の取り組みの一環で、同区民館では町民が生涯活躍できる環境を目指し、三育学院大学（大

## しめ縄作りで世代間交流

御宿

多喜町）と協力して、18年から昔遊びや料理教室など多世代交流事業を実施している。

しめ縄作りは、地元の高齢者が講師を務め、わらは農家から提供を受けた。参加者は教わった通りにわらを集めて結び、輪飾り作りにも挑戦。おやつには、同大の管理栄養士が手掛けた軽食が振る舞われた。

町の担当者は「初参加の人もいて、参加者は約30人と過去最高だった。住民が集える場所になってくれれば」と期待していた。

# 御宿に交流サロン

## ふれあいの家 多世代集える場に

御宿町御宿台で、交流サロン「ふれあいの家」がオープンした。毎週土曜日に無料で開放し、多世代のコミュニケーションを育む拠点を目指す。

御宿台は転入者が多い住宅街で、昨年同地区で行われたアンケートでは住民同士が気軽に集える場所の要望が多かった。集会所はあ

るが、約50あるサークル活動の予約でほぼ埋まっているという。そこで、同地区



オープンした「ふれあいの家」=御宿町

が町の補助金を活用して住宅を借り、拠点を整備した。毎週土曜日(祝日を除く)の午前9時～午後4時までで、飲み物を100円で提供。ボランティアのスタッフが対応する。

初日は多くの住民らでにぎわった。石嶋繁区長(74)

は「皆さんが楽しく集える場所に」とオープンを喜び、石田義広町長は「町は県内高齢化率1位だが、地区では徐々に子どもが増えている。多世代交流をしてみよう」と話した。